

実生にみられる分枝

ユキツバキの種子を蒔き、100個ほどの芽生えの中に1個だけ実生の段階で枝分かれして発芽したものがある。発芽の要因については不明であるが、実生の段階でテングス病にでも侵されたような印象を与える。

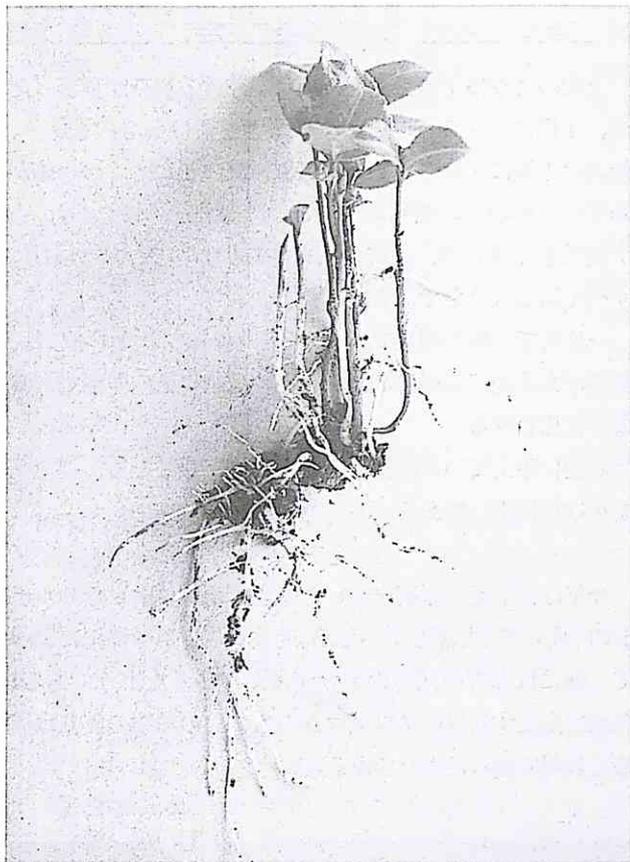


写真5 1個の種子から7本以上発芽した枝条
(実生の段階で枝分かれした幼苗)
新津植物資料室 (2004 10 29: 種子は長野県栄村産)

幹の切断部からの発芽 (不定芽)

樹林下に繁茂しているユキツバキを伐採した後、切り口から不定芽が多数生えることについては、本誌16号7頁で紹介した。切り口から芽生えた枝は、大きく生長する。自宅に植栽したユキツバキ系品種では周囲で10.2 cmほどの大きな枝に太っている (写真6)。

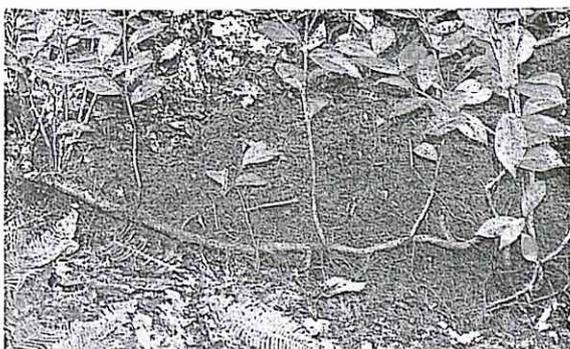


写真6 幹の切り口から芽生えた枝の生長
自宅 (2004 10 30)

[参考] 地中に埋った幹からの発根と発芽 (栄養繁殖)



▲写真 9-2 傾斜地の上部から見た地下の幹からの発根



◀写真 9-3 同上

「栄村の自然を調べる 写真でみるユキツバキの一生」(長野県下水内郡栄村教育委員会刊行) 26頁から引用